



小田原箱根商工会議所

「平成の城下町・宿場町構想」
～世界を感動させる歴史・文化テーマパーク～

「平成の城下町・宿場町」構想目次



目次

- 1、背景
- 2、メンバー紹介と活動報告
- 3、構想
- 4、そして未来へ



～背景～
国・地域の動き

観光を起爆剤に！好循環を生み出す！



我が国「日本」の動き



- ・2008年 観光庁設置
- ・2012年 観光立国 推進基本計画
→2020年迄に、
訪日外国人観光客を2500万人
→2016年迄に、
国の旅行消費額を30兆円
- ・2014年 地方創生
- ・2020年 東京オリパラ決定

**今、まさに、
世界規模の「地域間競争」真っ只中！
「観光」を起爆剤に！！**

我が国日本の最近の観光についての動き

- ・ 2008年 観光庁設置
- ・ 2012年 観光立国 推進基本計画
→2020年迄に、
訪日外国人観光客を2500万人
→2016年迄に、
国の旅行消費額を30兆円
- ・ 2014年 地方創生
- ・ 2020年 東京オリパラ決定

2008年の観光庁設置から、現在に至るまで、まさに、世界規模での地方都市の「地域間競争」が勃発しております。「観光を起爆剤に」地域活性や地方創生と日本中が動き始めております。



我がまち「小田原」の動き

- ・2016年4月 小田原市
「小田原市観光戦略ビジョン」制定
- ・2016年5月 小田原城リニューアル
- ・2016年5月 小田原箱根商工会議所
「小田原箱根観光ビジョン」制定
→タスクフォースの設置
- ・2016年6月 2市8町DMO
「かながわ西観光コンベンションビューロー」設立
- ・2017年4月 小田原DMO設立準備

「らしさ」からの脱却と 「ならでは」(小田原しかできないもの)の追求

我がまち「小田原」の動き。
特に本年度から動きが激しくなって参りました。

- ・2016年3月 小田原市
「小田原市観光戦略ビジョン」制定
- ・2016年5月 小田原城リニューアル
- ・2016年5月 小田原箱根商工会議所
「小田原箱根観光ビジョン」制定
→タスクフォースの設置
- ・2016年6月 2市8町DMO
「かながわ西観光コンベンションビューロー」設立
- ・2017年4月 小田原DMO設立準備

当会、5月に「小田原箱根観光ビジョン」を制定。
「らしさ」からの脱却と「ならでは」(小田原しかできないもの)の追求。

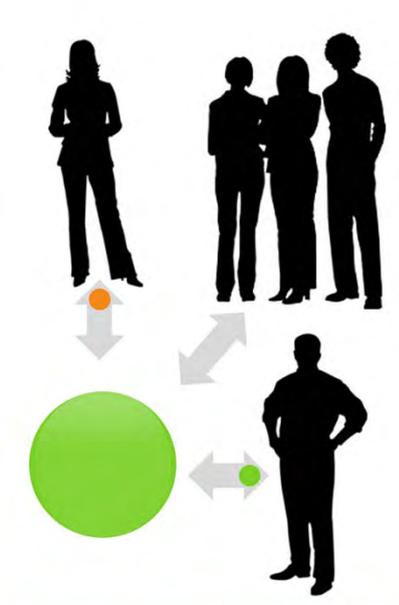


メンバー & 活動報告

我がまちのドリームチームが勢揃い！！



氏名	所属
杉崎 尚人	(有)おむろアカデミー(小田原JC理事長)
小西 正宏	(株)中村屋(商業部会)
近藤 忠之	(有)橋本(観光飲食部会)
栗田 康宏	(株)アイ・プラン (中心市街地活性化特別委員会委員長 兼2区自治会長)
櫻井 泰行	(有)タイコー (まちづくりビジョン特別委員会)
高橋 剛司	万葉倶楽部(株) (お堀端商店街振興組合)
平井 太一	平井商店 (小田原駅前商店会)
松下 弘	(有)松下靴店 (3区自治会長)
瀬戸 充	第27区自治会長
草山 明久	(株)報徳会館
外郎 武	(株)いろいろ
平井 丈夫	NPO法人おだわらまちづくり応援団
田代 守孝	(株)田代古右衛門本店 鱗吉
府川 光夫	箱根登山鉄道(株) (交通運輸部会)
佐藤 勉	東海旅客鉄道(株)小田原駅
鈴木 正美	東日本旅客鉄道(株)小田原駅
長澤 靖二	伊豆箱根鉄道(株)大雄山線管理所



**我がまちの
ドリームチームが
勢揃い！！**

タスクフォースメンバー

短期間で、効果的な成果を求めるため、
商工会議所会員を中心に、商店街、自治会、交通運輸等
現在様々なまちづくりに貢献・研究・行動している方々を
招集しました。

タスクフォース活動報告

会議名	日時	内容及び発表テーマ	報告者
第1回	8月3日(水)	説明及び顔合わせ	杉崎
第2回	8月26日(金)	かまぼこ通り活性化協議会の動き 中心市街地活性化協議会の動き	田代 栗田
第3回	9月9日(金)	商工会議所まちづくりビジョンの動き 歴史的建造物等を活用した文化観光	櫻井 平井
第4回	9月23日(金)	報徳仕法を使ったまちづくり	草山
第5回	10月14日(金)	おかげ横丁のまちづくり 小田原の「誇り」	前田 外郎
第6回	10月28日(金)	小田原駅から城への道「小田原城の参道」	小西
第7回	11月11日(金)	交通業務従事者からの提案	長澤
第8回	11月25日(金)	まとめ	全員
発表	11月29日(火)	小田原箱根商工会議所 創立70周年記念式典内での発表	杉崎

タスクフォース活動報告

全8回。

各会議での現在までの活動や考えを提案・発表者として時間を設け、各エリアごとに問題や提案を抽出し、まとめる形で進行。

最後に、シャレットワークショップでも小田原市はお世話になったNPO法人まちづくりデザインサポートの先生に監修してもらいながら、学生さんに絵を描いて頂きました。



城下町・宿場町 構想

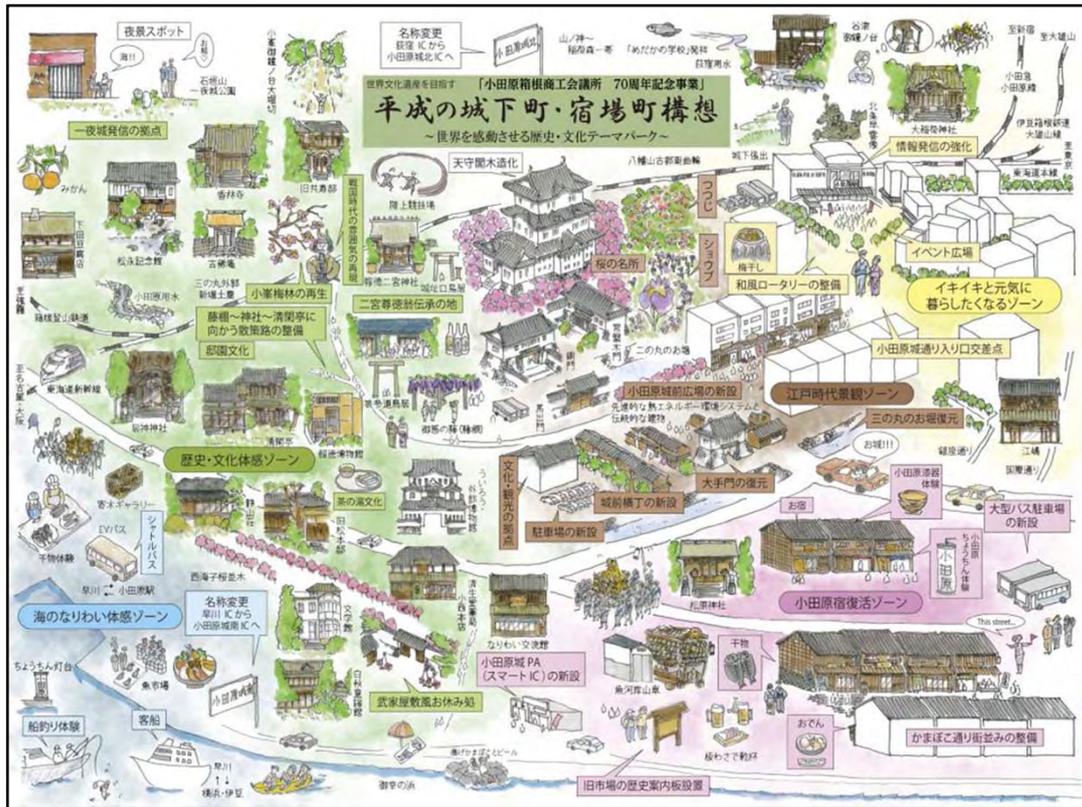
世界遺産登録をめざす！
世界を感動させる歴史・文化テーマパーク

城下町・宿場町構想

我がまちは、城郭都市として2つの城を持ち、400年以上の歴史を有し、そのポテンシャルに溢れている地域です。みんなが声を揃えて言う。「もったいない」と・・・。

- 1、様々な団体や人々が、バラバラで活動している
- 2、魅力ある地域資源を活かし切れていない
- 3、みんなが目指す共通のわかりやすい目標がない

商工会議所として民意を集結することにより、今後のまちづくり運動を推進しやすい環境を作ることに注力します。



そして、完成したのがこの未来予想図です！

我がまちは歴史・文化の宝箱。世界から人を魅了するポテンシャルがあります。

特に、現在あまり手つかずな3つの宝「小田原用水」「総構え」「一夜城」のその価値や可能性を私たち市民は知っていたのでしょうか？活かし切れているのでしょうか？

キーワードは、「らしさ」からの脱却と

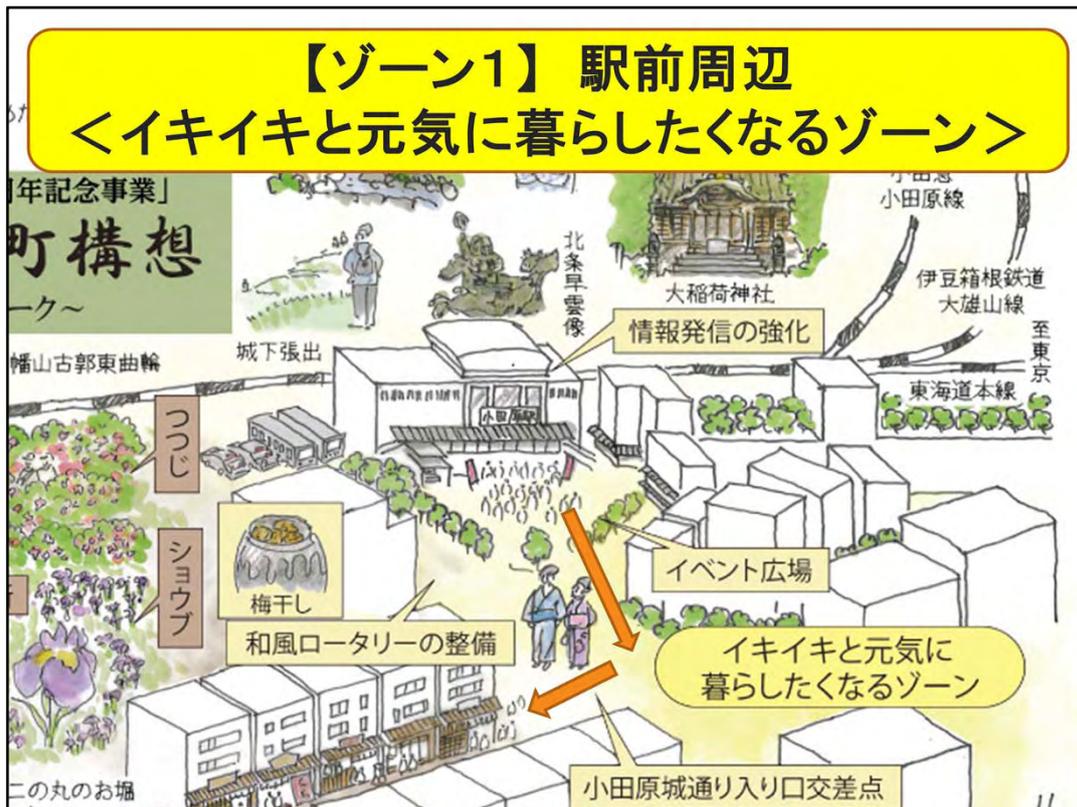
「ならでは」（小田原しかできないこと）の追求です。

基本視点

- 1、我がまちの顔（第一印象）を創る
- 2、小田原城への導線を引く
- 3、城を起点にまちの回遊導線を創る
- 4、特徴ある「ならでは」のエリアを創る
- 5、心（誇り）を創る

城下町・宿場町構想を迫及する上で、
重要な基本視点を5つ設定しました。

- 1、我がまちの顔（第一印象）を創る
- 2、小田原城への導線を引く
- 3、城を起点にまちの回遊導線を創る
- 4、特徴ある「ならでは」のエリアを創る
- 5、心（誇り）を創る



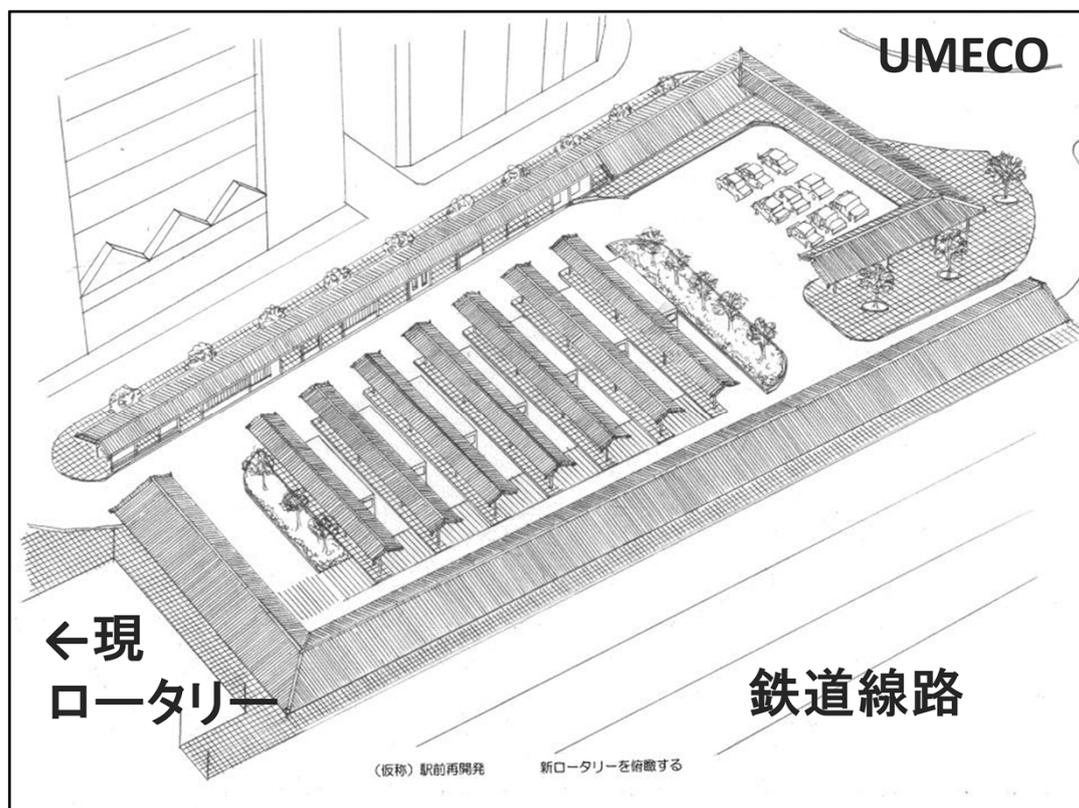
【ゾーンその1】小田原駅前東口・錦通り・東通り・浦町・小田原西口エリア
「市民がイキイキと元気に暮らしたくなるゾーン」

留意項目

- ◆鉄道の玄関口のあり方は要検討。
- ◆駅から城までの推奨ルートの確立と見える化
- ◆市民の明日への活力醸成
 - ・老朽化している建物を、市民の命を守るという観点で最適化する
 - ・新築・改築で、昭和レトロや江戸風情を活かしたワイワイ感ある市民のためのまちづくり重点
- ◆景観統一のルール設定
- ◆駅前中心市街地の都市化で環境整備と人口増加推進
- ◆ロータリーの重要性とあり方の確認
- ◆地上3階までの商業施設及び景観統一と高層階の住宅施設
- ◆駐車場付置義務緩和及び計画道路の見直し
- ◆高さ制限対策と対応
- ◆優良建築物・法定再開発の計画
- ◆ガーデンシティ構想。緑・ゴミ処理・道路・街並みがキレイ
- ◆まちのコンセプトに合致した標識・看板・環境整備
 - ・「お城通り」名前の検討 例) ウメコ通り
 - ・駅前通りとお堀端通りを「お城への参道」と位置づけ、合併を含めた共同プロジェクト
 - ・信号名の変更提案
「お堀端通り入口交差点」→「小田原城通り入口交差点」
- ◆市民の合意形成



当図は、小田原箱根商工会議所の中心市街地活性化特別委員会から提案されている図です。
小田原市の計画をたたき台に、行政、経済界、団体、商工会議所間で3年の協議を重ねた成果です。
考え方と役割分担を明確にして、分業して歩みを進めて参ります。



商工会議所からの提案

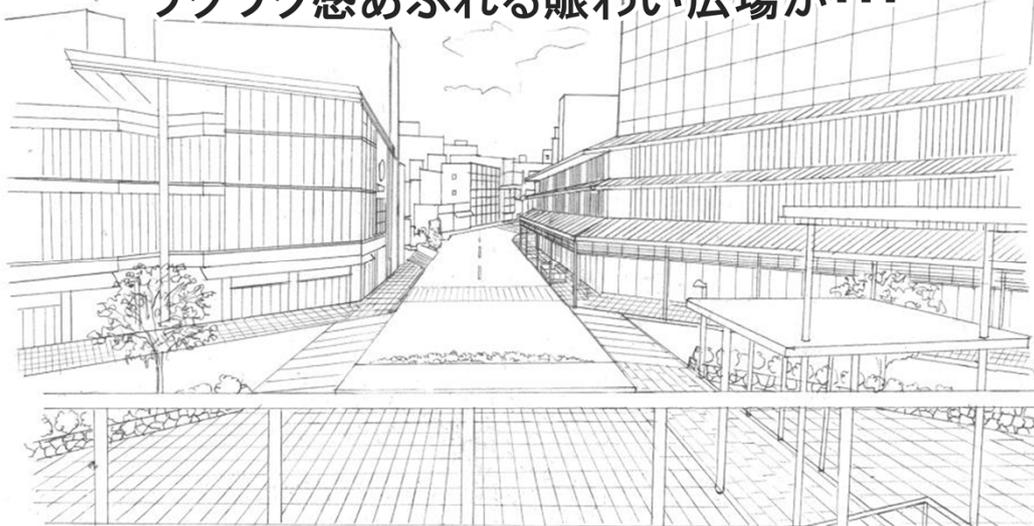
小田原駅前の現ロータリーを広場に。
ロータリー機能を、交番横の再開発地にすることを提案します。当図はロータリーの提案イメージです。

- 1、現状の乗降危険箇所の見直しと安心・安全性の確保
- 2、まちのコンセプトに合わせた景観整備
- 3、第一印象でのワクワク感・期待感の向上
- 4、観光バス等の駅東口での乗降所を完備



城下町のコンセプトに合わせた和風建築で統一し、現在では、西口しか乗降できない観光バスも東口にも乗降できるようにして、「小田原にお城があったんだ」と、知らなくて、後悔されるお客様を減らしていきたいですし、少しでも満足して帰って頂く工夫をしてゆきたいと考えます。

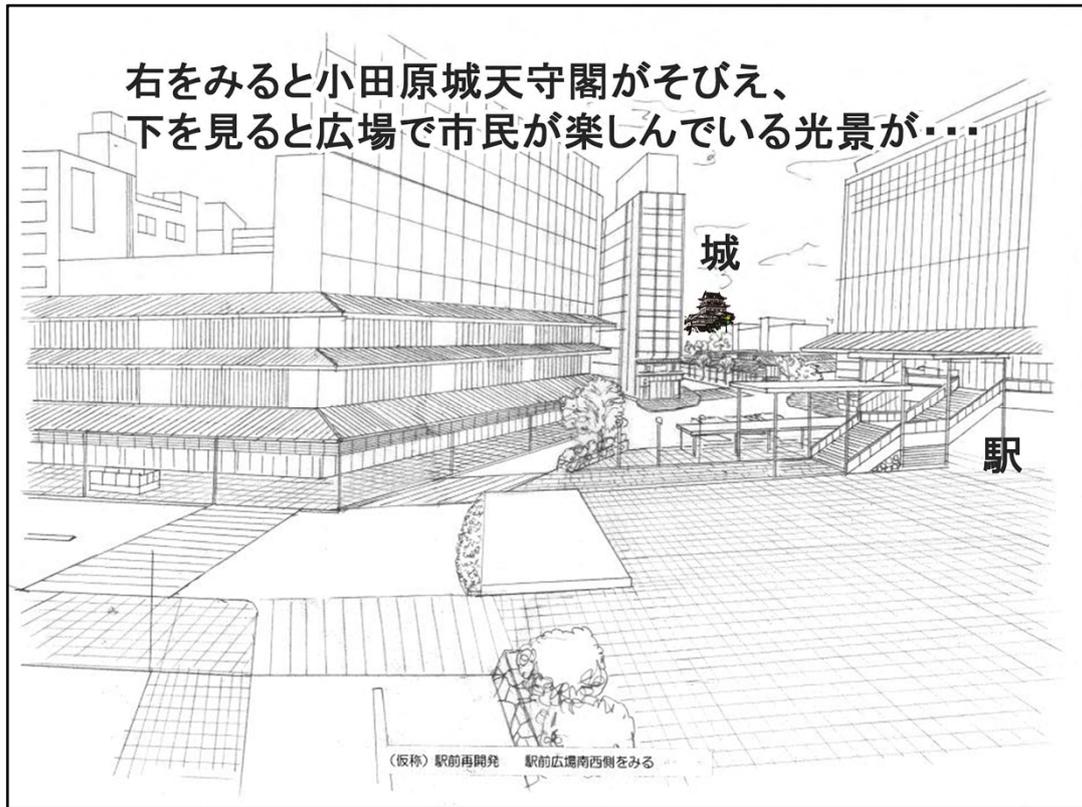
小田原駅東口を出るとそこには、城下町風情と
ワクワク感あふれる賑わい広場が...



2Fデッキからの眺め

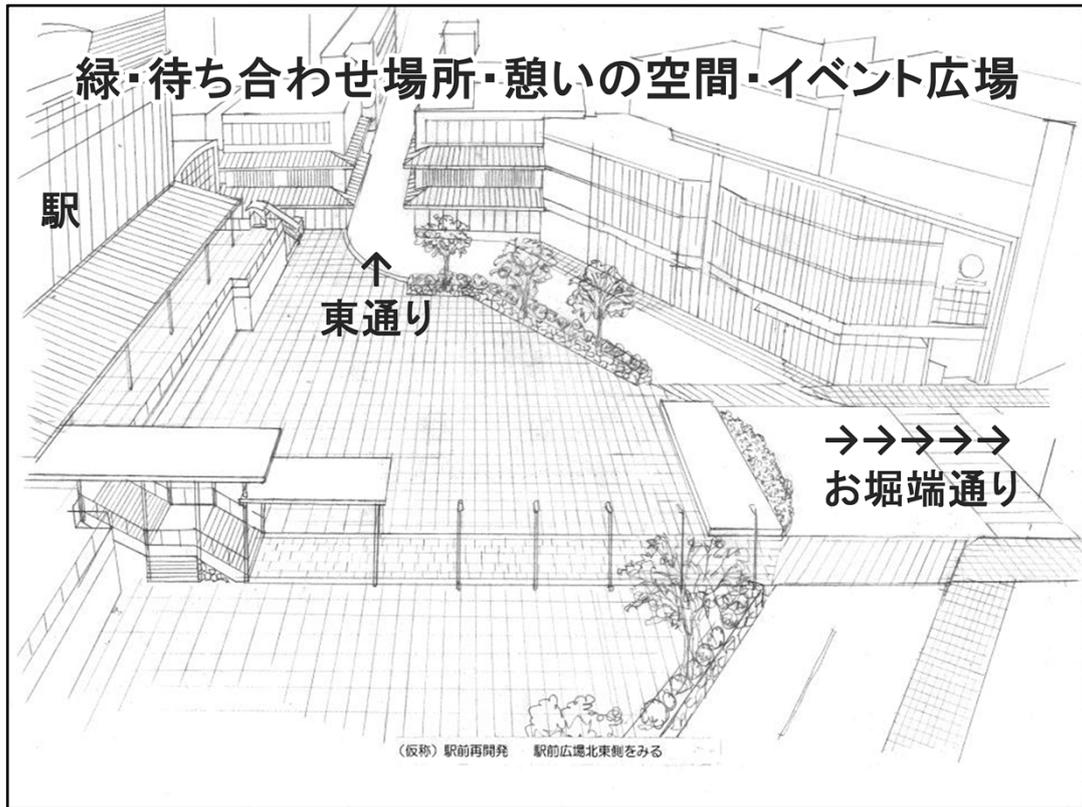
(仮称) 駅前再開発 駅前広場デッキより南東をみる

小田原駅東口は、我がまちのお客様（観光客）が一番最初に目にする重要な玄関口です。
ワクワク感や期待感を魅せた時、自然とまちを歩きたくなるような気持ちにさせる工夫が必要です。
また、地上3階までは統一したデザインコートをルール化を提案します。



当図は、東通りからお城をみたイメージ図です。

お客様が小田原駅東口を出て、右をみると小田原城天守閣がそびえ、目の前を見ると、駅前広場で市民が楽しみ・地域文化や様々な物事が発信される小田原駅ならではの顔や表情が必要です。地下街のハルネも相乗効果で賑わいます。



東通りや錦通り・ダイヤ街・浦町・小田原西口エリアの駅近徒歩5分圏内は、人口増加の可能性は大いにあり、定住人口増加が、安定した行政運営や、地元商店街のなりわいや雇用促進、地元住民用のお店やサービスも増え、まち全体のボトムアップに繋がり、やがては我々市民の「生きがい」にもつながります。本提案は、最低限必要だと検討された内容です。現在の計画との折衷案の模索や議論を深めていく事を希望します。

- ・ 東口駅前の機能とあり方の検討
- ・ 高さ制限対応
- ・ 計画道路の整備
- ・ 老朽化している建物の最適化



【ゾーンその2】お堀端・城前広場（仮称）周辺です。
「江戸時代景観ゾーン」

お堀端通りをメイン導線「お城に通じる参道」ととらえ、周辺商店街の皆様のお力も得ながら、江戸時代の景観と風情・活気を生み出し、来て良し、住んで良し、働いて良しのまちなみを表現して参ります。短期間ででき、経済的にも効果的である、店舗や建物の統一した意匠デザイン。庇（ひさし）と看板・サインのルール化・小田原城に誘導するサインを整備し、まちに賑わいをもたらし、みんなで資産価値を高める行動をして参りましょう！

- ◆江戸時代景観「小田原城への参道」
- ◆観光客と地元住民双方良しのバランス感
- ◆地域資源を活かし、現在の状態からイノベーション
- ◆花を活かした緑化事業 ・桜とツツジ等を活かし季節を楽しめる
- ◆お堀端通りから城郭を魅せる工夫
- ◆地元の食や文化体感できる店舗の推進
- ◆日本の文化を味わえるコンテンツ・店舗を追加
- ◆地上3階までの景観統一のルール化
 - ・地元木材を使用し、歴史的に存在した木質化とシックイ等蔵造り
 - ・すぐできることから取り組む意匠デザインの検討と庇（ひさし）や看板の統一

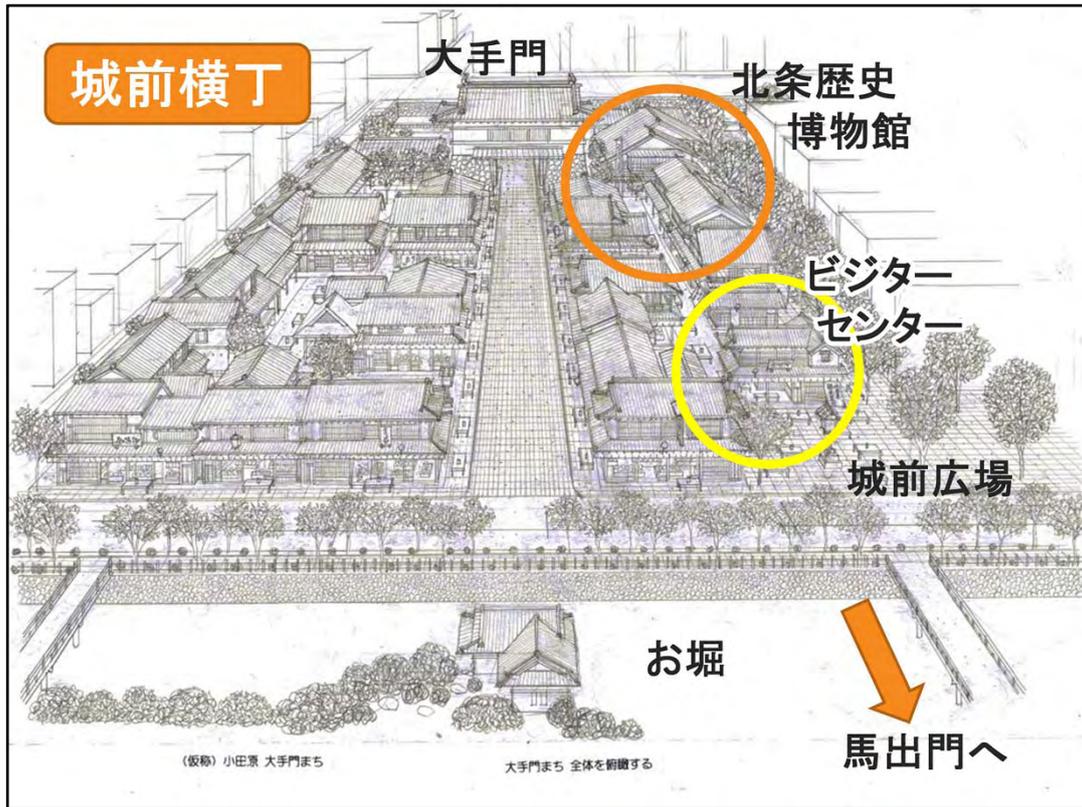
提案) 「アメリカ型」の建物から「ヨーロッパ型」の建物へ

提案①：壁面の揃った街区をつくる 提案②：中庭型の建物を検討する。

提案③：建物高さや道路斜線制限の考え方に緩和規定。

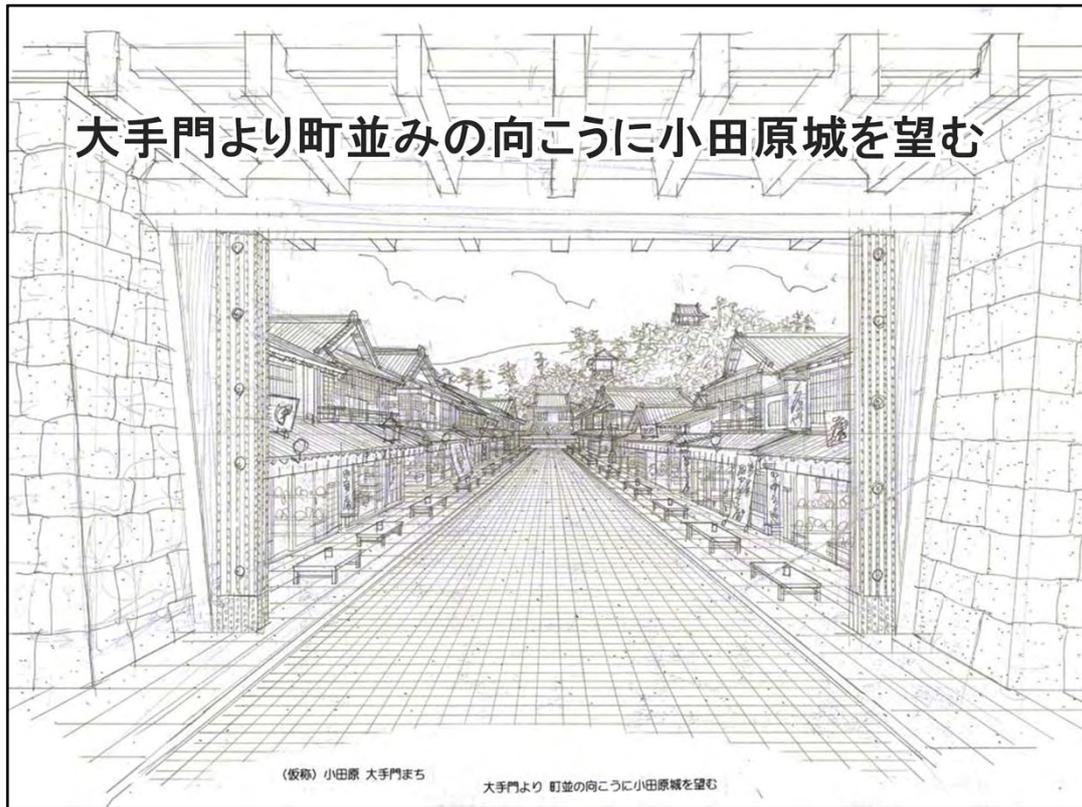
提案④：1階と2階をRC造（津波対策）3階から6階を木造（1時間耐火）

提案⑤：外壁のデザインは日本風に！ 提案⑥：新たな木造建築技術CLTを採用



当図は、市民会館・旧警察署付近の城前横丁のイメージ図です。

- 1、ビジターセンター（情報取得・まちあるきの拠点完備）
- 2、大手門と三の丸のお堀の復元
- 3、北条歴史博物館の設置（北条5代100年の歴史を学ぶ）
- 4、城前広場
- 5、馬出門より正規登場ルートで天守閣へと繋がる導線
- 6、桜・ツツジの手入れ
- 7、お堀と石垣の活用方法の見直し
- 8、駐車場・観光バス乗降所の整備
- 9、車の玄関口
- 10、観光・文化の拠点作り



当図は、正規登場ルート「大手門から望む」景色です。城下町らしいまちなみの奥には、小田原城天守閣が望めます。

大手門や三の丸のお堀を復元し、宮小路もふくめ、車の玄関口を作ります。そこには、駐車場を完備し、文化・観光の拠点を作ります。ここを拠点に置くと、城下町の中心に位置するので、四方を見渡すことができ、周りのゾーンへの回遊性も高まります。



当図は、お堀端通りを進み、お堀にさしかかった所からの眺めです。緑と青空が広がり、高さも抑えた城下町の景観が伺えます。

春には桜（ソメイヨシノ）、その約1か月後の初夏には、ツツジを楽しめ、その横には、日本情緒あふれる建物やそこに行き交う人々が、彩りをもたらしてくれます。

※特にツツジは、手入れや植え替えをし、きれいな花が咲く状態を希望します。（ツツジではなくてもお堀の周りの季節の風物詩となる植物を希望します。）



【ゾーンその3】かまぼこ通り・宮小路エリア
「小田原宿体験ゾーン」

- ◆小田原かまぼこ店強化
- ◆空き家リノベーションや古民家再生での旧東海道最大の「小田原宿」の風情復活
→宿泊スタイルの提案や物見やぐら等の建設（朝日を見る→朝の営み）、建物の木質化や道路をアスファルトから石畳に。
- ◆小田原の文化体験ゾーン「かまぼこ・干物・梅干し」「ブリ漁・神輿・山車文化」
→「小田原ものづくり・海のなりわい」を最大化
(お休み処・食べ処・食堂・カフェ・呑み処の充実)
- ◆住民の合意形成
- ◆小田原城パーキングエリアで西湘バイパスからも人を惹き込む仕掛けを。
 - ・海からの車の入口強化 → モータープールで車を停めてまち歩きを促進
 - ・西湘バイパスの横や下の空間を有効活用
- ◆現代版「花街」で箱根からの集客UP
- ◆大型バスや乗用車駐車場完備し車の玄関口としての整備
- ◆Rent Gapを利用し、生産と販売の拠点
- ◆職人のまち（マイスター制度）の拠点

かつて東海道最大級の宿場町を現代に！町並みの整備はもちろんのこと。小田原ならではの、宿泊施設で、かまぼこや干物を作る音と、朝日で目がさめます。朝食は、漁港にサイクリング。戻ってきてカフェや文化体験や町歩きはいかがでしょう？時には、昼からビールや日本酒と板わさ・干物で乾杯！なんておつですね！

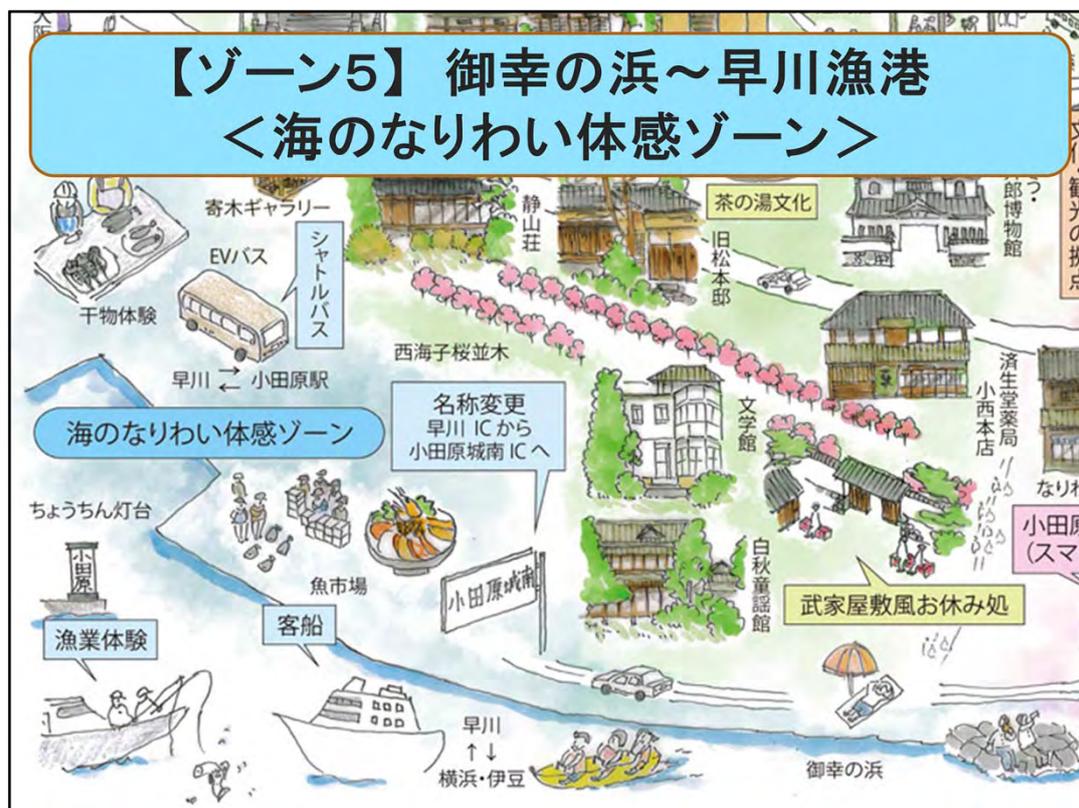
さらに、御幸の浜には、小田原城パーキングエリア。そのモータープールからまち歩きを促せば、西湘バイパスからのお客さまもGET！宮小路奥には、大型バス駐車場も完備。とにかく歩いて、体験して楽しむゾーン。夜はまたひと味違う現代版の「花街や遊郭」も。文化GDPを高めるゾーンはここです。



【ゾーンその4】南町・さいかち・板橋
「歴史文化体感ゾーン」

- ◆まち歩き、食べ歩きの充実
- ◆まちづくりガイドの充実
- ◆二宮尊徳・邸園文化伝承
- ◆トイレ・休憩所・文化公園の整備
- ◆道の名前を決め、文化通り
→文化財に触れることのできるエリアの充実
- ◆薬花畑・郷土資料館移転
- ◆住宅地の環境保全も
- ◆武家屋敷 ロケ現場誘致
- ◆駐車場・バス停
- ◆湘南邸園文化圏と連携
- ◆報徳仕法を使った取り組みの強化
(柑橘倶楽部・事業の後押し・資金調達)

このエリアには、神奈川県で最も老舗のういろうさんや二宮尊徳伝承の地、そして清閑亭で代表される庭園文化、様々な歴史文化が体感できるエリアです。休憩所やトイレを整備し、文化財に触れ、学びながらまち歩きができるゾーンです。また、武家屋敷を整備し、TVロケ班も誘致して参りましょう！



【ゾーンその5】 早川漁港から御幸の浜
「海のなりわい体感ゾーン」

- ◆まち歩き、食べ歩きのソフト・ハードの充実
- ◆海のまちコンテンツを強化
 - 海鮮中心の食文化の強化
 - 漁師体験・市場体験ツアー、朝市などの本格的な事業化
 - 小田原早川漁港周辺は漁港グルメの観光地
 - 海のアクティビティの構築
 - 『JRの駅では日本一港に近い駅』早川駅を活かす。
 - 海水浴、マリンスポーツ、漁業体験、「干物やかまぼこ作り」を体験できる施設を設置。
- ◆海の交通の玄関口
 - 客船が行き来できる港とその交通網を広げる

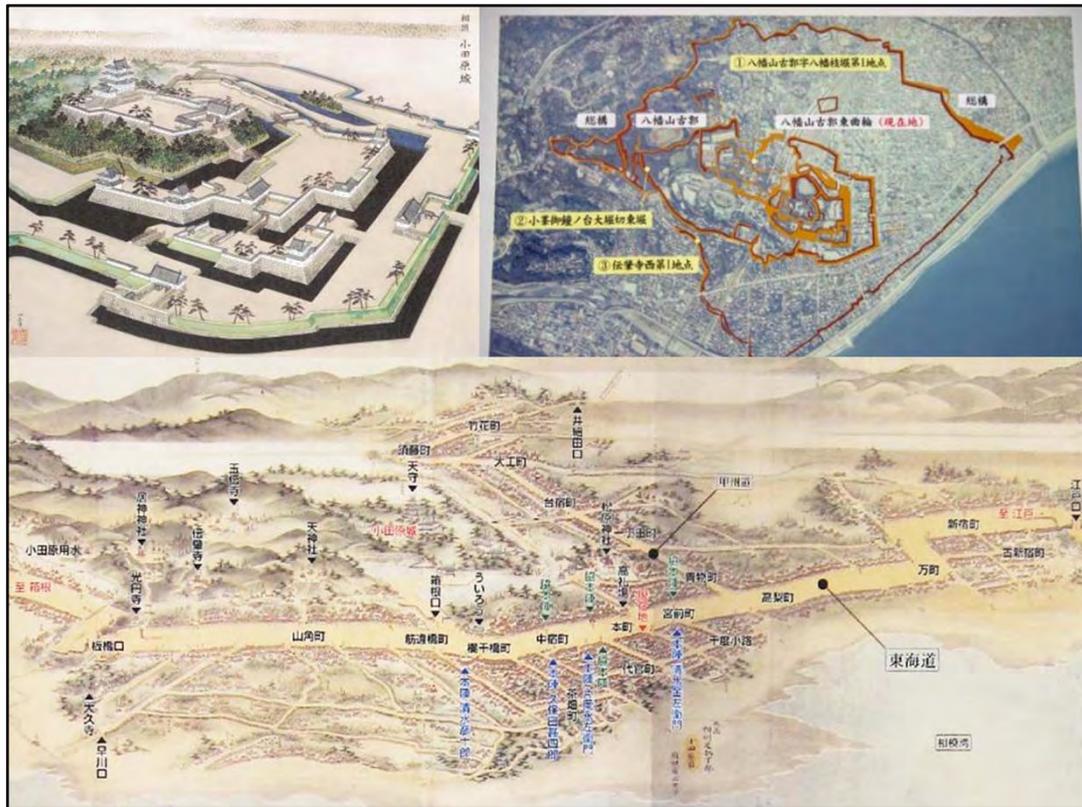
【ゾーン6】 総構え(大外郭)

<北条の城郭都市は近世のまちづくりのモデルだった>



【ゾーン6】 総構え・大外郭です。

この図は、1860年頃の江戸時代のもので、1590年北条攻めで小田原城を取り囲んだ全国の名だたる大名は、小田原城下町を見てびっくり！そのまちづくりの手法等を全国に持ち帰り、近世のまちづくりのモデルとなりました。



様々な文献が現在まで残されており、
文化財の保全・復元は次代に人類の歩みを後世に残す上で
非常に重要です。

しかしその観点に活用という要素をもう少し入れて頂きたい
という事も提案します。
まちのコンセプトに合った取り組みを進めるために、保全
をするために、その計画を実行するための資金を稼ぎ、次
なる投資のために貯蓄してゆくことも必要です。

【ゾーン6】 総構え(大外郭)
 <北条の城郭都市は近世のまちづくりのモデルだった>



当図は、最近の小田原です。我がまちが残した足跡は、歴史文化的に貴重な存在です。

- ◆歴史・文化テーマパーク（ゾーニング）の見える化を強調
- ◆稼ぐ地域をめざし、財源確保と実行力を持てるようにし、市民全員に興味をもって一緒に動ける工夫を（事業協会との役割分担も含む）
- ◆ハブ都市へ（名古屋～富士山～横浜～湘南）や◆近隣地域と組み、東海道のブランド力UP
- ◆観光客の滞在時間を2時間伸ばすコンテンツの強化
- ◆全国に名を轟かせるイベントの強化
- ◆小田原市では、歴史文化まちづくり課は必要
- ◆地区協定や条例を作り、ある程度縛っていくルール
- ◆外見は、趣があるが、中身は最先端の商店
- ◆乾杯条例・板わさお通し条例
- ◆創業〇年をプレート表示（なりわい百年名店） や、日本初を調べる →ツアー化
- ◆小田原物（ODAWARA-MONO）の追求
- ◆人の命を守る物語でまるごと特区や文化遺産申請
→緊急避難道路→再開発（都市化&木質化）
- ◆好循環を求めるサイクルを生み出すきっかけづくり
（観光で外貨を稼ぐ→住民サービスUP→土地の価値UP）
- ◆食文化やB級グルメに習い公募やコンクールでメニュー増
- ◆海なし県へのPR（特に北関東）や外国のガイドブックにのせる
- ◆神社仏閣を入れまち歩き（入口・地形の要所のみ・全体170）
- ◆各店のレシートにキャッチフレーズやおもてなしの気持ちを
- ◆道路標識や看板を小田原城に通じるように変更。行政・国交省・中日本と調整。
- ◆車ででの中心市街地への入れ方やまちなかのルート整備。小田原物（ODAWARA-MONO）の追求
- ◆一夜城・小田原用水・総構えの発信力やコンテンツの強化

先に説明した6つゾーンをそれぞれそのゾーンの目標に合わせ特区申請し、規制緩和をかけながら、まちのコンテンツに磨きをかけ、その魅力を高め、400年の歴史と2つ（3つ）の城を持つ歴史文化テーマパーク「小田原城下町・宿場町」として、世界文化遺産登録をめざして参りましょう！



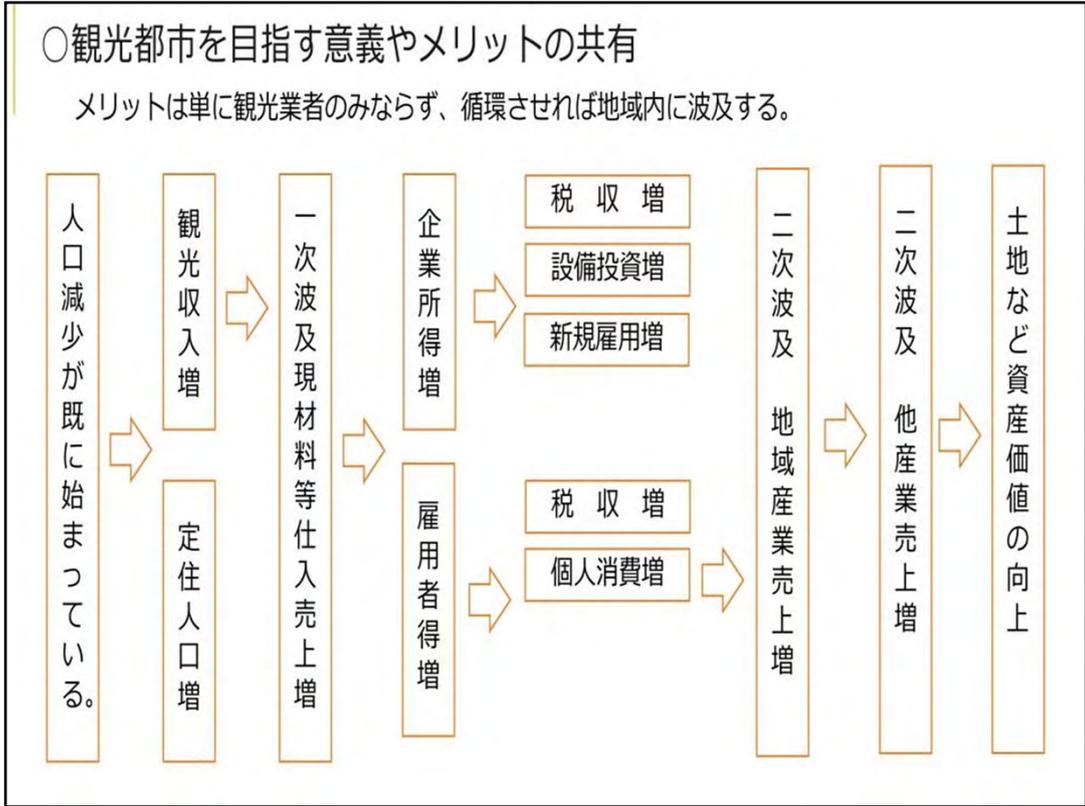
そして未来へ

自分たちの未来は、自分たちで創る！！

そして未来へ

自分たちの未来は、自分たちで創る！

持続可能な官民連携まちづくりモデルを！



観光とは、まちを活性化する上で、起爆剤となり、好循環をもたらす、きっかけとなります。稼ぐ地域となり、その稼いだ資財を次なるものに投資をしてまちを盛り上げて参りましょう！その結果、この図のように、様々な恩恵をみんなが受けられます。

小田原市の、観光の位置づけやその重要性をもっと市民と共有しましょう。また、選択と集中をはっきり明確化することで、わかりやすい行政運営も希望します。



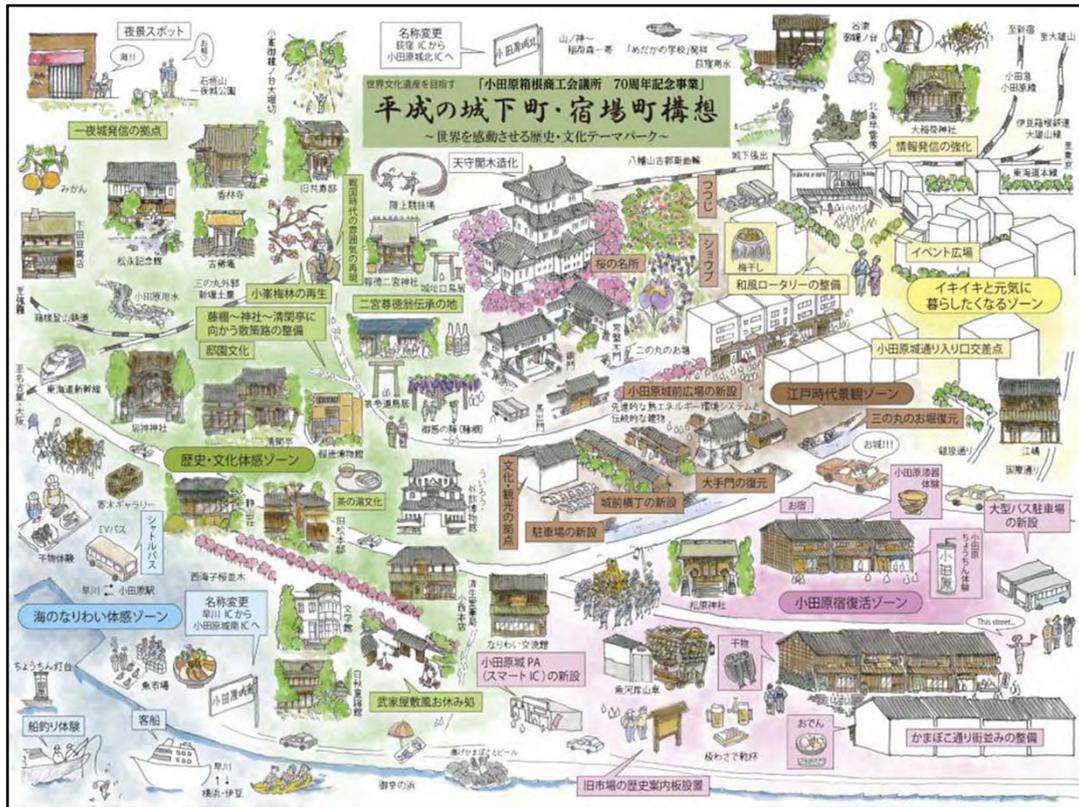
未来予想図が実現するために。

- 小田原が観光事業を推進する意義の共有
- 「すぐできること」「予算や補助金がなくてもできること」から積み上げる。
- 公民連携「財源がない中ででき得る仕組み」「稼ぐまち」づくり。
- 民民連携「稼ぐ仕組み」「ひと・もの・お金を循環」を構築。

この未来予想図が実現するために。

- 1、我がまち全員が観光事業を推進する意義の共有をすること
- 2、「すぐできること」「予算や補助金がなくてもできること」から積み上げること
- 3、公民連携「財源がない中で出来る仕組み」稼ぐまちづくりをすること
- 4、民民連携「稼ぐしくみ」「ヒト・モノ・カネ」を循環するしくみを構築すること

が必要となります。



我がまちの誇りを創る！世界を感動させる歴史・文化テーマパーク「小田原城下町」をめざして
 平城の城下町・宿場町構想タスクフォース
 委員長 杉崎 尚人

様々な想いを胸に、多くの先人たちが我がまちのために尽力し、歴史や文化として、現在あるカタチを残して下さいました。そして今現在も、様々な皆様が次代にお土産を残そうと様々な素晴らしい歩を進めております。社会のグローバル化が進む中で、経済が急発展している海外の活力を積極的に取り入れていくといった観点からも、国の政策である「観光立国」の実現は、観光地を保有する我が地域に不可欠な重要課題であります。言い換えれば、我がまちの活性化のためにローカルとグローバルを併せ持つ視点で展開する運動が必要です。その中で勿体ないと思うことがあります。様々な団体や人々が、其々素晴らしい動きをしているのに、なぜみんなと一緒にやらないのだろうか？一緒にやればもっとすごい事ができるのに。まちの共通の目標を掲げて、みんなが其々の得意技を持ち寄り、役割分担をしながらその歩を進めていったのなら、その物語に磨きがかかり、グローバルな視点を持つ、唯一無二の彩りで輝き、人を魅了し、人が集う地域へと加速していくはずで。

その中でも世界規模での地域間競争に勝ち得る歴史・文化・アート・体験ツアー等彩り溢れるテーマパーク化、観光産業の事業構想力の形成と強化に取り組み、地方創生や東京オリパラをきっかけに運動を展開し我がまちの誇りを再構築する事が今求められております。さらに、地元地域を愛する我々がやるべき仕事とは、その組織力や運動の推進力を高め、現状ある地域資源を発信・連動させ、見せ方を変えたりイノベーションを起こし、地域の価値を高め、未来を見据え、先駆けた持続可能な運動展開をしていくことです。また、観光を起爆剤とした小田原市全体の総合力をボトムアップする好循環のサイクルも構築していかなければなりません。

小田原城を中心とした「世界を感動させる歴史・文化テーマパーク」平城の城下町・宿場町構想。これは、観光ビジョン達成の第一歩です。

今回提案した構想は、最終形でも完成形でもありません。ひとつの構想であり、提案です。これから行動を移す時に、様々な皆様と連携を取りながら、動いていかなければなりません。そしてこのエリア外の、他のエリアのあり方も考え、総合力でも考えていかなければなりません。さらに、箱根とセットでシティプロモーションをしていったのなら、きっと世界から人を呼び込めます！これからみんなで、具体的な議論や行動をすることを期待いたしますし、共に動いて参りましょう！